

號〇四第

[illegible]

政務次官
回付
參與官

決裁
前後

連帶課名



軍

初



40



同治

人行(鴻)

課裁



10

1

100



甲兵

起元廳(課)名

陸軍技術本部

審察
筆記者

陸軍副官ヨリ陸軍技術本部長へ通牒

九五式軍刀四月二十日附陸技術甲第二〇九號
上申、通定セラレハキニ付該図面（概説共）百
十七部送付相成度

追テ軍需審議會々長報告ニ基キ鞆囊ハ本制
式ヨリ削除相成度申添フ

陸軍第四〇九號

昭和十年八月六日

右図面送付アリタル後左案決行相成度

陸軍副官ヨリ兵器局長、教育總監部庶務課長、
兵器本廠長、造兵廠長官、技術本部長、築
城部本部長、各師團及台灣、關東軍、支

那駐屯軍^各要塞司令官へ通牒

九五式軍刀別紙図面、通定メラレシニ付該図面（概説共）部送付ス

陸普第五二一〇

昭和十年九月十六日

図面配布数

教統九、兵本一、造兵四、校本六、第二、第三師團及関東軍各二、其他各一

昭和拾年九月廿參日

陸軍省

陸軍

圖面添付

三五〇

陸技本甲第二〇九號

九五式軍刀假制式制定相成度件上申

昭和十年四月二十日

陸軍技術本部長 岸 本

陸軍大臣 林 銑 十 郎 殿

首題ノ件別紙圖面ノ通假制式制定相成度上申ス

添付書類

九五式軍刀假制式兵器圖

貳 葉

同 細目名稱表

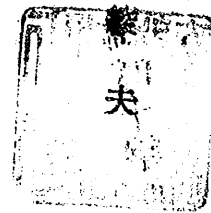
貳 部

同 審査經過ノ概要

貳 部

同 概 說

貳 部



九五式軍刀模説

昭和拾年四月廿日
陸軍技術本部第一課

一、目的 三十二年式軍刀甲、乙ニ同シ

二、構造 刀ハ刀身、鍔ヨリナリ、属品トシテ刀緒、鍔囊、刀帶、附革ヲ附ス

刀ハ其ノ形状ヲ日本刀ニ範リ刀身ニハ鍔ヲ附シ鍔及柄ハ將校刀ニ近似セシメ黄銅製ニシテ銅鍍金ス鍔ハ内外共防錆シ外面ハ帶青茶褐色ニ塗漆シ先端ニ鍔ヲ附ス鍔木ハ專ラ刃部ノ保護ニ適セシメ且鍔口ニモ改良ヲ如フ

鍔囊ハ鍔ヲ保護スルニ用牛刀緒ハ長サヲ増シ馬上操用ニ便ナル如ク改正ス

三、重要諸元

刀ノ重量	新製
一 珎六三	一 珎六三
刀ノ全長	一 珎五二五
	一 米九六
属品ノ重量	一 珎五三
	一 珎五三

刀身	長サ		〇米六七八
品質			刀剣鋼
反			稍腰反
柄			両手握將校刀ニ近似
鐔、切羽			將校刀ニ近似
品質			普通鋼
整 裝 品	「パラフィン防水綿布帶青茶褐色染		
刀帶	三十二年式軍刀ノモノニ同シ		

兵器審査經過ノ概要

昭和十年四月
陸軍技術本部

一名 稱 九五式軍刀

三審査起源ノ大要

三十二年式軍刀ハ從來輕ノ防錆法ニツキ研究シアリシカ刀ノ操用上ノ不便モ尠カラス切味モ亦良好ナラサルタメ構造上改良ヲ改加フルノ必要ヲ認メ大正十二年以降兩者併行シテ研究シ大正十四年三月ニハ徒歩乘馬兼用ノモノヲ可ナリトシ方針ヲ變更シテ審査ヲ進メタル處昭和四年再ヒ乘馬刀ハ護舉ヲ必要トスルノ意見起リ徒歩及乘馬力ノ別二種ヲ審査シ昭和七年二月成案ヲ得ルニ至レリ然ルニ時恰モ將校刀改正ノ議起リ昭和九年二月之カ制定ニ伴ヒ下士官以下用軍刀モ外觀形狀等々之ニ近似セシムルノ必要ヲ認メ護舉モ大ナル必要ナシトノ意見ニ基キ乘馬及徒歩刀ノ區分ヲ廢シ一様式ノモノニ改メ併セテ三十二年式軍刀ノ既製品大量ナルニ鑑ミ經濟上之カ利用法ヲ考慮シ審査スルコトセリ

三審査經過ノ概要

一、防錆ノ試験 大正六年以降錆染、塗料、「メタリコン」鍍金、乾式亜鉛鍍金ニ付キ試験ヲ實施セルモ效果十分ナラス大正十五年以降刀ト併セ審査ス

ルニ決ス

2、第一回實用試験 大正十二年三月乘馬刀及徒歩刀各二振ヲ試験シ戸山學校
騎兵學校ノ實用試験ニ附シタルニ兩者共兩手振ノ徒歩刀ヲ却テ有利トスル
ノ意見一致セシヲ以テ乘馬徒歩兼用ノモノニ付審査スル方針ニ改ム（寫眞
第一）

8、第二回實用試験 大正十四年三月乘馬徒歩兼用トシ且重心位置ヲ後方ニシ
且反リノ度ヲ増シ柄ヲ兩手握トセルモノ六振ヲ試験シ戸山、歩、騎兵學校
ニ各二振實用試験ヲ委託ス、特ニ戸山學校ニ委託セシモノニハ附刃シ内一
振ハ刀身ヲ耐錆鋼トシ試斬リノ後騎重兵第一大隊ニ委託ス（寫眞第二）
是等試験ノ成績ヲ綜合スレハ左ノ如シ

三十二年式軍刀ニ比シ形狀適當ニシテ硬度、彈性共ニ概ネ可ナリ
然レ共重量ヲ少シク増シ重心ヲ前方ニ移シ特ニ乘馬ニ用フル爲ニハ長度ヲ
増スヲ可トス、又部品ノ構造ニ多少ノ修正ヲ加フルヲ要ス

4、第三回實用試験 大正十五年九月左ノ如ク改正シテ前記部隊ニ實用試験ヲ
委託ス（第五回實用試験品寫眞第四ニ略同シ）

改良要點左ノ如シ

- (一) 刀身ノ厚サ全般ニ「〇・五」料増加ス
 - (二) 柄ヲ淺キ波狀トシ且斷面ノ角ヲ取リ蛋形トス
 - (三) 駐爪ハ其壓面ヲ廣クシ且緩傾斜^斜ヲ附ス
 - (四) 轡ハ被黃銅軟鋼管トス
 - (五) 鯉口ハ其小ねぢヲ兩面ヨリ施ス如クス
- 實用試驗ノ成績ヲ綜合スレハ左ノ如シ
- (一) 刀身ノ寸法形狀ハ可ナリ但反リノ度ヲ減少スルヲ可トス
 - (二) 柄ノ形狀ハ日本刀ニ近似セシムルヲ要ス
 - (三) 乘馬ニ用フル爲ニハ護^拳ヲ附スルヲ可トス
 - (四) 刀緒ハ乘馬ニ用フルモノニハ之ヲ附シ柄頭ニハ簡單ナル飾緒ヲ設ケ又指貫ハ不要トス
 - (五) 鋸ハ僅カニ柄頭ノ方ヘ凹曲セシメ卵形ヲ可トス
 - (六) 轡ハ輕量トナスヲ要シ且被黃銅ハ適當ナラス

5、第四回實用試驗 昭和三年五月各部隊ノ成績ニ基キ改良ヲ加ヘ乘馬及徒歩

用中種ノモノヲ試験シ實用試験ニ附ス（寫眞第三）

改正セル要點左ノ如シ

(一) 柄ハ長直造ノ太刀ヲ模シ製作ヲ容易ニシ美觀ヲ呈セシメ刀緒ヲ附シ特ニ乘馬用ニハ護拳ヲ附ス

(二) 中心^{ナカ}ハ反^{マデ}ヲ區^{マデ}ヨリ急角度トナラサル如クシ且柄トノ關係ヲ顧慮シ成ル可ク太サヲ大ニシ長サヲ短縮ス

實用試験ノ成績ヲ綜合スレハ概ネ良好ナルモ左ノ諸點ハ改正スルヲ要スイ、徒歩用

(一) 刀刃ハ物打ニ最大ノ力ヲ加フル如ク改修スルヲ要ス

(二) 刀背部ヲ庵棟トスルカ又ハ丸味ヲ附スヘシ

(三) 鐔ハ卵形トナシ平鐔ヲ可トス

(四) 刀緒ハ必要ナシ若必要トセハ其附著位置ヲ操用ニ不便ナラサル如クスルヲ要ス

ロ、乘馬用

(一) 長サヲ少クモ一寸増スヲ要ス

(二) 肘爪ねノ位置ハ左側面ヲ可トス

(三) 刀緒ノ必要ナシ

ハ、兩者共

刀身ヲ耐錆鋼トシ又輕ノ防錆法ヲ一層良好ナラシムルヲ要ス

6、第五回實用試験 昭和四年九月前回實驗ノ結果ニ基キ構造ヲ改メ併セテ防

錆法ヲ施シタルモノヲモ試験シ實用試験ヲ委託ス

其試験成績左ノ如シ

戸山學校

徒歩用

イ、刀 身

(一) 重量及寸法可ナリ但柄ハ鍔元ヨリ柄頭迄ノ寸法約二糎延長スルヲ可トス

(二) 重心位置可ナリ但柄ヲ延長スルニ重心位置ハ依然本刀ノ如クナスノ願慮

ヲ要ス

(三) 反リ及刀背部ハ概シテ可ナルモノ刀背部ハ一層圓棟トシ又刀尖部横手ヲ約

一糎下ケ「フクラ」ノ半径ヲ大ニシ大切先トナスヲ要ス

(四) 柄ノ左手無名指及小指ノ部位ハ粗面トナシ握リ締マ良好ナラシメ且切羽ハ鑢ト密著セシムルヲ要ス

(五) 鉾爪はね及鑢ハ可ナリ但鑢ハ其重量ヲ減スレハ一層良好ナリ

(六) 刀緒取付部ノ孔ヲ據太スルヲ要ス

ロ、鞘

形状、寸法、重量及外觀可ナリ

ハ、刀 緒

形状可ナルモ寸法ハ刀ヲ離シタル際直ニ右手ニテ柄ヲ握ルニ便ナル如クスルヲ要ス

乗馬用

徒歩用ト略同シ但護拳ヲ強テ必要トセハ重量ノ軽減ニ著意スルヲ要ス

騎兵學校

(一) 制式トシテ採用スルニ適ス

(二) 刀身ノ重ネヲ薄クスルヲ要ス

(三) 皮シ得ル限リ輕量ナラシムル爲柄ハ黃銅ヨリ輕ク強度ナルモノニ改メ鑢

ニ穿孔スルヲ可トス

輜重兵第一大隊

イ、一般所見

(一) 乘馬用ハ操用、保存、取扱共ニ實用ニ適ス

(二) 制式ヲ單一ナラシムル爲操用ヲ便トセル乘馬用、徒歩用ノ折衷案ノモノニ改メ單ニ佩刀法ニ依リ區分スルヲ可トス

ロ、細部所見

徒歩用

(一) 柄ハ長キニ失ス

(二) 刀緒ノ位置及長サハ研究ヲ要ス

(三) 重心位置高キニ失シ乘馬ノ際動搖甚シ

乘馬用

(一) 三十二年式軍刀ト大差ナシ

(二) 刀身ノ重心位置可ナリ

7、第六回實用試験 昭和六年三月徒歩用一振ヲ試験シ戸山學校ニ實用試験ヲ

委託セシニ其實驗報告左ノ如シ（寫眞第五）

イ、刀身

(一)寸法、形狀（反リ、刀背部）、重量及重心位置可ナルヲ刀尖部ヲ約三
耗長クシ大切先トナスヲ要ス

(二)鋸ハ可ナルモ日本刀ノ樣式ヲ採リ小孔ヲ穿ツヲ可トシ又切羽ハ一層鋸
ニ密著セシメ音響ヲ發セシメサルヲ要ス

(三)駐爪はね可ナリ

(四)柄ノ左手ノ無名指及小指ノ握ル部位ハ稍平滑ニシテ握リ締め作用困難
ナリ改造スルヲ要ス

(五)柄頭ノ形狀ヲ改ムルヲ要ス、把持困難ニシテ操用不便ナリ又柄頭ノ取
付堅牢ナルヲ要ス

ロ、輪

重量輕キニ過キ堅牢ナラス

ハ、刀緒

長サヲ三五糎トナスヲ可トス

ニ、外 観

全般ニ染烘ヲ施スヲ要ス

8、以上試験ノ結果ニ基キ小改修ヲ加ヘ成案ヲ得タルヲ以テ昭和七年二月上旬ノ手續キヲ爲セシ處時恰モ將校隊刀改正ノ議起リ本刀モ亦更ニ審査ヲ繼續スルコトニ定メラル

9、第七回實用試験 操用ヲ便ニシ切味ヲ良クシ且雖ノ防錆ヲナシ併テ日本刀ノ型ヲ採リ入レシモノヲ試験シ各種附刃ノ上實用試験ニ附ス（寫眞第六）改正要點ヲ舉クレハ次ノ如シ

（一）柄ハ其斷面ヲ蛋形トシ柄頭ハ黃銅製ニシテ古刀ノ型ヲ採リ石目ヲ附シテ塗漆シ鍔ニハ橢圓ノ孔ヲ設ク

乘馬刀モ護拳ヲ除キ徒歩刀ト同一ニス

（二）刀身ハ處棟トシ樋ヲ挟クシ其ノ先端ヲ切先ノ形狀ト同一ニシテ「エリ」ヲ廣クス

（三）鑢ハ日本刀ニ準シ斷面丸味ヲ附シ鑢ヲ洪形トス、内外共「パーカライズ」又ハ「ボンデライト」防錆法ヲ構シ鑢ニ外部ハ小豆色ニ塗漆ス

實用試驗ノ成績左ノ如シ

北滿冬季試驗ニ於ケル成績概観（統制課）

切レ味、韌性共ニ良好且操法便ニシテ實用的價値十分ナリ

戸山學校 判決

(一) 切味可ナリ但重險附刃ハ造兵廠研磨ニ比シ切味劣ル

(二) 金 質 斬突用トシテ可ナリ

(三) 形 狀 寸法（柄ヲ含ム）、重量及重心位置共ニ可ナリ

歩兵學校 判決

現制軍刀ニ比シ操用輕快、片手及兩手ノ使用容易外備亦勇壯ニシテ若干ノ改修ヲ加フレハ實用上ノ價值相當大ナルモノト認ム

騎兵學校 判決

試製軍刀ハ現制軍刀ニ比シ重心位置良好ニシテ乘馬徒步共ニ操作容易ニシテ實用ニ適スルモノト認ム

聯軍兵第一大隊 判決

柄古刀ノ型ヲ採リ其長度ヲ増加セル爲双手ノ操用ニ適シ自ラ氣合布實シ

斬撃確實ナリ、又片手ノ操用ニ於テモ重心位置適當ナルヲ以テ制式衝刀ニ比シ遜色ナシ

實用試験ニ於ケル各隊ノ改修意見ヲ綜合スレハ次ノ如シ
イ、操用上ヨリ見タル改修意見

(一) 柄ヲ日本刀式ニ太クシ握締ヲ良好トナシ且滑リヲ止ムル如ク改修スルヲ要ス

(二) 柄ノ取付ヲ一層堅牢ナラシムルヲ要ス

(三) 駐爪ばねハ拔刀間ノ把握確實ナル如ク改ムルヲ可トス

(四) 刀緒ヲ鋸ヨリ柄頭ニ通スル如ク改ムルヲ要ス

(五) 佩環ノ位置ヲ佩刀ノ際頭部過重トナラサル如ク上部ニ改ムルヲ要ス
ロ、防錆ノ耐久性及其可否

(一) 現制衝刀ニ比シ將カニ良好ニシテ色彩ハ偽裝ノ目的ヲ達シ可ナル干塗料ノ剝脫防止ニ付研究ヲ要ス

(二) 乾燥時ニ於テハ其耐久性大ナル干潤潤ノ際強拭及他物ニ衝突スレハ塗料剝脫シ易シ

ハ、其他

(一) 護身ハ乘馬刀ニモ必要ナシ

(二) 刀緒及指貫ハ附スルヲ要ス

10、

「クローム」鍍金減刃法ニ依ル減刃軍刀實用試験、昭和八年十月科學研究所研究ニ係ハル「クローム」鍍金ニヨル刀劍ノ附刃及減刃法ニヨリ減刃シタルモノ戸山、歩、騎兵學校ニ實用試験ヲ委託ス、其結果ヲ綜合スレハ次ノ如シ

本程度ノ鍍金ノ効力ニ於テハ短期使用ノ外重險ノ實用ニ適セサルモノト認ム

露刃後ノ切味ハ鍍金減刃前ノ切味ト大差ナシ

11、

第八回實用試験 將校刀ノ改正ニ伴ヒ第七回試験軍刀ヲ之ニ近似スル如ク鍔及柄ヲ改修シ更ニ三十二年式軍刀ヲ試験軍刀ト相同様ニ改修シタルモノヲ實用試験ニ附ス（寫眞第七）

但シ戸山學校ニ委託セルモノハ附刃（手研キ）ス

實用試験ノ成績次ノ如シ

歩兵學校 判決

試製軍刀、改修軍刀共ニ若干ノ改修ヲ加フレハ實用ニ適シ目現用三十二年式軍刀ニ比シ良好ナリ、又改修軍刀ハ試製軍刀ニ比シ一層良好ナルモ
ノト認ム

騎兵學校 判決

試製軍刀及改修軍刀ハ若干ノ補修ヲナサハ騎兵用軍刀トシテ良好ナル
モノト認ム

戸山學校 判決

(一) 切 味

試 製 軍 刀

改修三十二年式軍刀

概 可

(二) 拵ヘニ關シ

制式トシテ試製軍刀式ヲ採用スルヲ要ス、但當分改修軍刀式ヲ以テ徒歩
下士官以下ノ實用ニ充スルニ差支ナシ

騎重兵第一大隊 判決

試製軍刀及改修三十二年式軍刀ハ若干ノ改修ヲ加フレハ現制ノモノニ比
シ遙ニ其實用的價值優レタルモノト認ム

改修其他ノ意見ヲ綜合スレハ左ノ如シ

- (一) 研キハ普通研キニテ弄支ヘナシ但仕上ノ検査規格ヲ定ムヘシ
 - (二) 刀身ノ減刃部ハ一〇度ヲ超ヘサルヲ要ス
 - (三) 柄、鐔ノ動搖ヲ防止スル爲メ鋸ヲ附スルヲ要ス
 - (四) 刀身ノ刃部保護ノ爲メ鯉口内部ヲ黃銅製トスルヲ要ス
 - (五) 駐爪ノ機能ヲ良好ナラシメ以テ不慮ノ危事ヲ豫防スルヲ要ス
 - (六) 柄ノ滑リヲ防止スル爲メ目ヲ荒クスルヲ要ス
 - (七) 佩環ノ位置ヲ鯉口ヨリ六釐トスルヲ要ス
 - (八) 鍍ノ塗料ハ衝撃及摩擦ニヨリ剝脱シ易シ研究ヲ要ス
 - (九) 刀緒孔小ナルヲ以テ猿手ヲ設ケ刀緒ヲ附スル如ク改ムルヲ要ス
 - (十) 柄ニ龜裂ヲ生セサル如ク製作上注意ヲ要ス
- 戰時用刀身ト平時用刀身トヲ辨クルノ可否
各試験部隊共戰時刀身ト平時刀身トヲ辨クルヲ可トスル意見ナリ

12、第七回及第八回實用試験ニテ得タル切味ノ成績左ノ如シ

試製軍刀及制式軍刀切味成績比較表

考 備	三十一年式軍刀 (甲、乙平均)		改修軍刀 (三十一年式軍 刀改修)		試 製 軍 刀		軍 刀 研 別 キ 別		斬 撃 量 及 材 料		截 断 面 積 (平方寸)		斬 撃 量 (割)	
	手 研	軍 隊 附 刃 研	手 研	軍 隊 附 刃 研	手 研	軍 隊 附 刃 研	手 研	軍 隊 附 刃 研	便衣(防寒被服) ニ テ被覆セル豚	被覆セサル豚	東	藥		
本表ハ陸軍戸山學校ニテ實施セル試斬試験成績トス	三二	三七	九七	一〇七	九五	一〇七	二〇六九	四四八五	被覆セサル豚	東	藥			
	四二	三七	九七	一〇七	九五	一〇七	二〇六九	四四八五	被覆セサル豚	東	藥			
	三二	三七	九七	一〇七	九五	一〇七	二〇六九	四四八五	被覆セサル豚	東	藥			
	四二	三七	九七	一〇七	九五	一〇七	二〇六九	四四八五	被覆セサル豚	東	藥			

以上數次ノ試驗成績ヲ綜合シテ次ノ判決ヲ得タリ

一、刀ハ兩手操ノ一様式トシ附刃（普通手研）セル戰時用刀ト減刃セル平時用刀ニ區分ス、戰時用刀ノ減刃部ハ鍔元ヨリ一〇センチ研キノ程度ハ最下限見本ヲ設ケ

二、刀身 刀劍鑢製トス

断面ハ斬撃ニ有利ナル如ク銳利ニシ背部ハ淹揔トシ樋ヲ狭クシテ其先端ヲ切先ノ形ト同一ニシ「チリ」ヲ磨クス、反リハ腰反トシ黃銅製ノ鍔ヲ附ス（新製品）

改修刀ハ新製品ニ近似セシムル爲長サ及反リヲ新製品ニ一致セシメ鍔ヲ附ス柄ハ兩手握トシ切羽、鐔、柄及柄頭ハ共ニ黃銅製ニシテ日本刀ニ近似セシメ切羽ヲ除キ銅鍍金シ鐔、柄及柄頭ノ凹部ニハ石目ヲ刻ス指貫ヲ廢ス

刀緒ハ長サヲ増シ馬上操用ニ便ナラシメ且裝脫ヲ容易ナラシムル爲鐔環ヲ設ケ刀身ノ鐔及柄頭ノ後手ヲ通シテ裝着ス

三、鍔 普通鍔製トス

日本刀ニ準シ断面ニ丸味ヲ附シ先端ニ黃銅製ノ鎧ヲ設ケ内外共「バーカライズ」防錆法ヲ講シ外部ハ更ニ帶青茶褐色ニ塗漆ス

纏木ハ刃部ノ保護良好ナル乾型トス

鯉口ハ刃部ヲ保護スル爲内部ヲ黃銅製トス

佩環ノ位置ハ鯉口ヨリ右五厘トス（以上新製品）

改修刀ノ纏ハ新製品ニ準シ所要ノ改修ヲ加フ但纏木ハ纏ノ太サノ關係上使用シ得サルヲ以テ纏板ハ新製調ス

四、纏囊、纏ノ塗料ニ關シテハ各種ノ塗料ニ付研究セルモ耐久性十分ナラサル爲帶青茶褐色染「バラフィン」防水綿布製ノ纏囊ヲ設ケ以テ纏ヲ防護スルト共ニ併セテ光輝ノ發スルヲ防ク

之ヲ要スルニ右ノ刀ヲ以テセハ防錆ノ目的ヲ達スルノミナラス刀ノ操用ハ現制式ノモノニ比シ著シク便ニシテ且斬撃ハ日本刀ノ中等程度タルコトヲ確メ得タ

附表第一

同		乙		甲		三十二年式軍刀		改修軍刀 (三十二年式軍刀改修)		改製軍刀		名 稱		試製軍刀ト制式軍刀トノ諸元比較表	
刀劍鋼		鋼板 第五種		鋼板 第五種		鋼板 第五種		黃銅 第五種		黃銅 第五種		刀身			材 質
鋼板		鋼板		鋼板		黃銅		黃銅		柄		鐙			
鋼板		鋼板		鋼板		鋼板		鋼板		鋼板		鋼板			
護脊		護脊		護脊		平		平		平		鐙			形 狀
片手		片手		片手		兩手		兩手		兩手		柄			
11.5		13.5		15.5		15.5		反		刀		寸			法 (規)
164		192		95		リヨ 92		惠心		身		身			
26.25		26.25		26.25		28.80		巾		柄		柄			
5.0		5.32		5.32 5.0		6.0		厚		身		身			
774		835		678		部 678		長		柄		柄			
132		132		230		230		長		柄		柄			
778		870		730		730		長		柄		柄			
930		1002		960		960		長		柄		柄			
1,557		1,665		1,525		1,630		(重量)		全		全			
				用ス		鞆囊ヲ使				摘要					

第一真馬

第一回試製

用馬乘



用歩徒

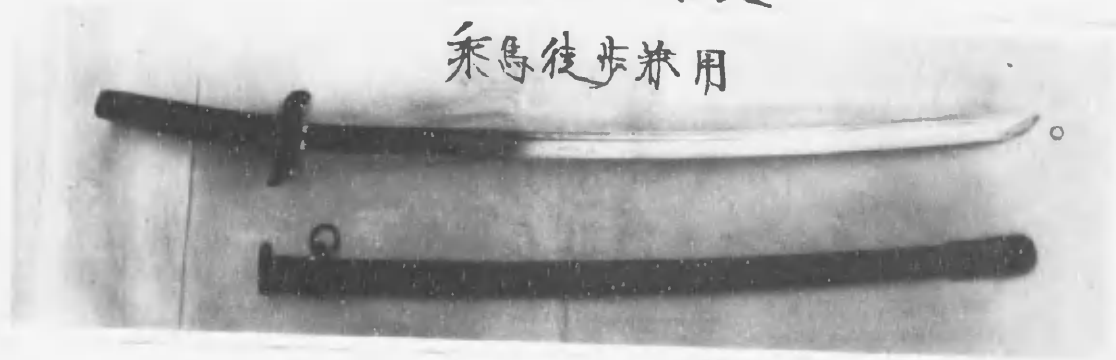


0354

第二真馬

製試同第二

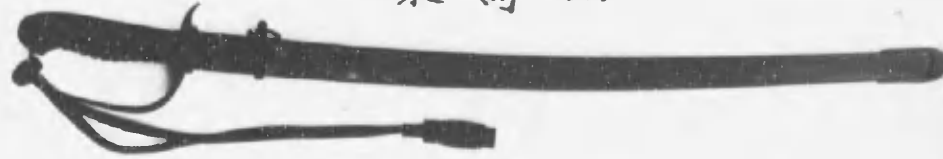
用兼歩徒馬乘



0355

第三真寫

製試同第四
用馬乘



用歩徒



0356

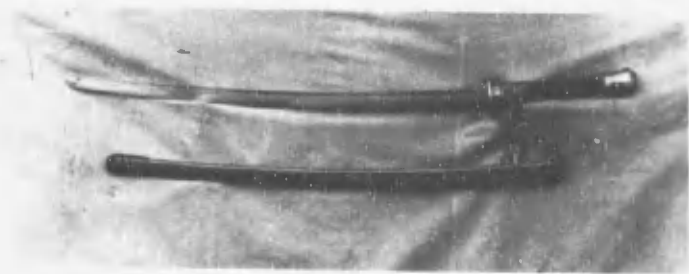
寫真第四

第五回試製



0357

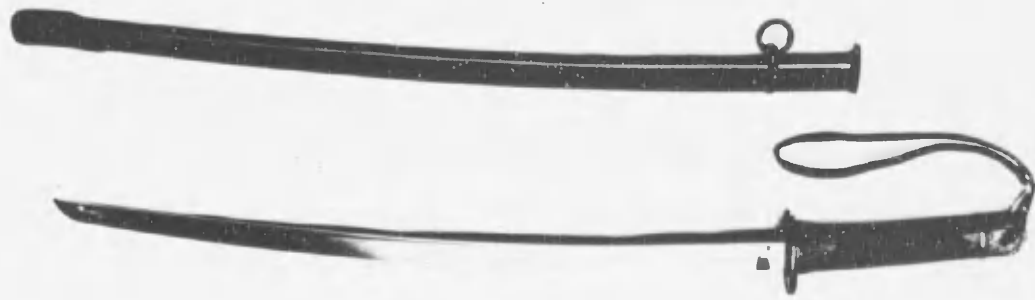
寫眞第五、第六回試製
徒 歩 用



0358

製試第七回 第六真寫

用兼歩使馬兼

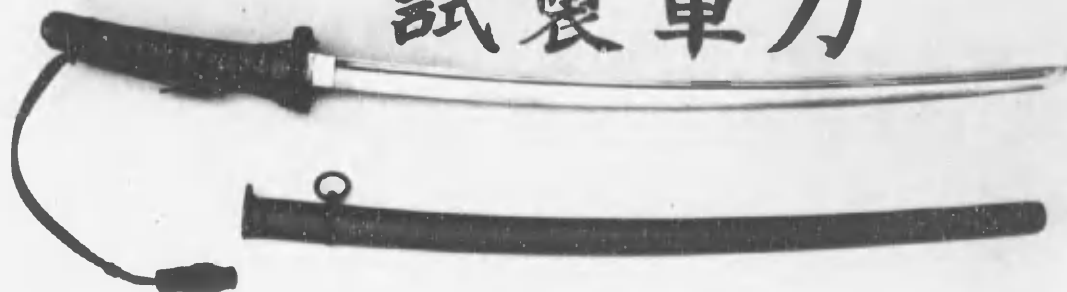


0359

第七真寫

製試同第八
用兼歩徒馬來

刀軍製試



刀軍修改



0360

1930

五三九〇 共一

陸技本甲第四五九號

九五式軍刀圖面竝概説送付ノ件通牒

昭和十年九月十三日

陸軍技術本部副官 岡田

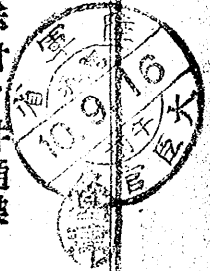
陸軍省副官 牛島 満 殿

本年八月六日附陸普第四四〇九號通牒ニ係ル首題ノ圖面竝概説

(圖面拾枚) 概説壹枚 各百拾

七通送付ス

追テ現品ハ陸普番號押捺ノ上銃砲課ヘ直送可致ニ付承知セラレ度



2

陸軍部
10.1.2
95
軍事課

陸 普

副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ通牒

首題細目名称表別紙ノ通定ヲラレシニ付平時用

部送付ス

追テ本表ノ配布区分ハ三十二年式軍刀ニ依リ
尚同軍刀ノ次ニ綴込マレ度申添フ

陸普第一六一四號 昭和十一年三月廿七日

細目名称表ハ別紙原稿ニ依リ官房ニ於テ千五百
部印刷相成度

昭和十二年四月廿四日

堀江鏡池理子
書記

兵器細目名稱表九五式軍刀

配賦表

配賦箇所									
大臣官房	二								
軍務局	三								
整備局	二								
兵器局	三								
参謀本部	三								
教育總監部	三								
兵器本廠	三八								
造兵廠	五二四								
技術本部	二一五								
築城部本部	一								
航空本部	一三								
配賦箇所									
運輸部	九								
經理學校	一								
侍從武官府	一								
憲兵司令部	二四								
近衛	三三九								
第一師	四五								
第二師	二八								
第三師	三七								
第四師	二七								
第五師	二四								
第六師	六六								

百參拾貳